

シモヤケに対して処方した 桂枝茯苓丸で 「嫌な咳」が軽快した一例



小林 豊 先生

南魚沼市立ゆきぐに大和病院 和漢診療科 部長

1985年 富山医科薬科大学 医学部 卒業

同 年 同附属病院 和漢診療部 入局

1990年 市立砺波総合病院 東洋医学科 部長

1993年 ゆきぐに大和病院 和漢診療科 部長

はじめに

日常診療において、随証治療によって思わぬ効果が得られることがある。そこで、随証治療の重要性を再認識した症例を紹介する。

症 例

症 例：49歳 女性(主婦)。

主 訴：シモヤケ。

既往歴：鉄欠乏性貧血(当院内科にて治療中)。

現病歴：高校生の頃から、秋から冬にシモヤケができやすく、春までそれが続いた。X-4年に足のシモヤケが悪化したため、内科からトコフェロールニコチン酸エステルなどが処方されていたが無効であり、漢方治療を希望してX年10月27日に当科を受診した。

現 症：初診時現症および検査成績では、貧血(Hb 8.6g/dL)以外に異常所見はなかった。

和漢診療学的所見：自覚症状は、首・肩・背中のかおり、すぐアザになる、など瘀血を推察させる症状が目立ち、また他覚所見でも舌候や腹候から瘀血の病態があると推察し、駆瘀血剤の代表である桂枝茯苓丸を選択した(図1)。

臨床経過：若い女性の中には錠剤を希望される方も多ことから、桂枝茯苓丸料エキス錠(18錠/日)を処方した。桂枝

茯苓丸を4週間服用したところ、シモヤケと足の冷えが軽減しただけでなく、足のむくみも改善した。経過中に桂枝茯苓丸の服用を2回中断しているが、そのたびに症状は悪化し、桂枝茯苓丸の服用を再開することで改善した(図2)。

さらに咳漱に関して、「漢方薬を中断したら、嫌な咳がまた出るようになった」、「漢方薬を中断するとシモヤケが悪化し、また咳が出始めた」という興味深い訴えが聴取された。咳漱に関しては、初診時の問診票には咳の項目には該当の記載がなく、患者本人も治療に対して何ら期待していないようであった。「嫌な咳」と表現する咳漱は、咳き込みのような激しい咳漱ではないが、不快な咳で長年悩む、内科で処方された鎮咳剤や去痰剤では無効、喉が詰まった

図1 和漢診療学的所見

自覚症状

疲れやすい、身体がだるい、乗り物酔いしやすい、寒がり、冷える(特に手足)、シモヤケができる、口がねばる、首がこる、肩や背中がこる、すぐアザになる、足がむくむ

月 経：周期が1週間以上ずれる 二 便：やや便秘傾向

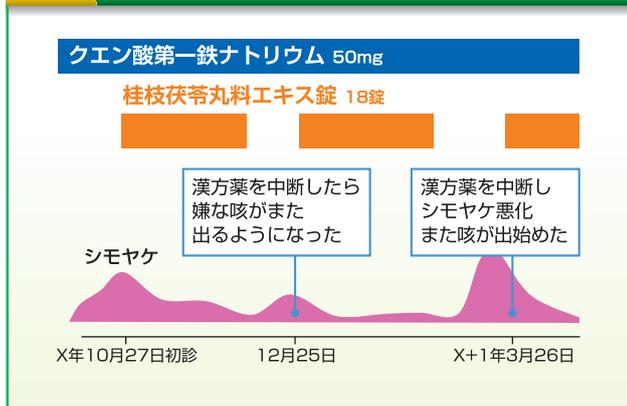
他覚所見

脈 候：沈やや実弦

舌 候：舌質ほぼ正常紅、微白苔(+)、舌下静脈怒張(+)

腹 候：腹力中等度、左右の臍傍圧痛(右<左)
鼠径部圧痛(+)、四肢厥冷(+)

図2 臨床経過



ような、引っかかる感じ、咳をしてはいけない状況で悪化する、などであった(図3)。

桂枝茯苓丸を服用すると咳は軽快し、服用を中断すると悪化する、再開すると軽快することから、患者本人は「確かに漢方薬が効いている」と断言し、予想外の効果に驚き大変喜ばれた。桂枝茯苓丸による咳の改善は予想しておらず、演者も非常に驚いた症例である。

桂枝茯苓丸は駆瘀血・活血化瘀の代表的な方剤だが、『黄帝内経素問』(欬論第三十八)には咳嗽に関する興味深い記載がある(図4)。

まとめ

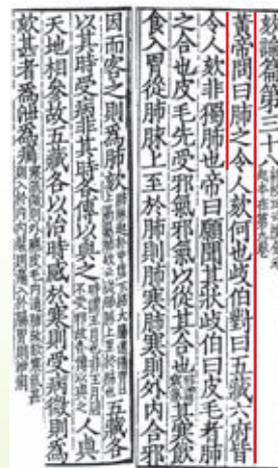
咳嗽の訴えがあると「肺」を思い浮かべて方剤を考えるが、本症例のように証に随い駆瘀血剤を用いることで、患者本人もあらかじめ咳が改善することがあることを実臨床で学び得た。和漢診療学的な病態の把握に基づいた漢方治療の重要性を再認識した貴重な一例であった。

図3 「嫌な咳」の特徴

- 「変な」、「嫌な」と表現するような不快な咳で長年の悩み。
- 寒い季節に悪化しやすい。
- 風邪の咳とは違う。咳き込みもゼイゼイも伴わない。
- 空咳のようで咽が詰まったような引っかかった感じ。
- 夜間・仰臥位・咳をしてはいけない状況で悪化することあり。
- 内科で処方された下記の鎮咳剤・去痰剤は全く無効。ジヒドロコデインリン酸塩・dl-メチルエフェドリン塩酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩配合剤、フドステイン
- 桂枝茯苓丸で軽快し、中断すると再増悪、再開で改善。

→ 本人の印象「漢方薬が確かに効いている」

図4 『黄帝内経素問』 欬論第三十八



黄帝が問う

「肺(の病)が人に咳嗽を起させるのはどういう訳なのか？」

岐伯が答える

「五臓六腑(の病)は、いずれも人に咳嗽を起させます。単に肺(の病)だけがそうなのではありません」

Comment

寺澤: 私も長年、漢方治療を行っていますが、桂枝茯苓丸で長期に続いていた咳が治ったという経験はありません。この症例はいわゆるdry coughではないかと思えます。麦門冬湯や滋陰降火湯などは、気道粘膜の表面の脱水状態を潤す作用があるから効果を発揮するわけですが、それと同様の効果、すなわち気道環境を桂枝茯苓丸が改善したと思われる。いわば、気道が枯れてしまって具合が悪いわけですから、内科の先生が処方した鎮咳剤や去痰剤はかえって気道を乾燥させてしまい、咳を悪化させる、逆の治療になってしまうわけです。

患者さんから咳の訴えがあれば、麦門冬湯や麻杏甘石湯、また気道が乾燥していれば滋陰降火湯や滋陰至宝湯などの処方を選択しがちですが、もう少し患者さんの状態や訴えを大局的に把握することが必要であることを教えられた症例だと思えます。